

審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1232 号	氏名	岡部 留美子
審査担当者	主査	内村 直尚	(印)
	副主査	石脇 孝寿	(印)
	副主査	西 昭徳	(印)
主論文題目： Increased Cortisol Awakening Response after Completing the Summer Treatment Program in Children with ADHD (サマートリートメントプログラム参加により ADHD の小児における起床時コルチゾール反応は増加する)			

審査結果の要旨 (意見)

本研究は、ADHD の小児に対する 2 週間の行動療法プログラム (サマートリートメントプログラム ; STP) の効果を、ADHD の症状や QOL の改善で示すと共に、起床時コルチゾール反応 (CAR) の測定により客観的に示し、症状や QOL と CAR の改善との関連についても明らかにした。同時に母の CAR を測定することにより、子どもの行動変容に伴い母のストレスが軽減した可能性についても言及している。また、効果の持続を 4 か月後まで追跡し、CAR に変化をもたらした機序について考察を加えた。

本論文は行動療法の重要性と効果についてバイオマーカーを用いて客観的に示した意義ある研究であり、STP の経過を学校や家庭にフォードバックし、適切な介入を継続することにより効果の持続が期待される。

論文要旨

注意欠如多動症 (ADHD) の小児における起床時コルチゾール反応 (CAR) については殆ど知られていない。我々は夏季集中治療プログラム (STP) の前後、4 か月後で ADHD の小児とその母親の CAR を評価した。

2009 - 2010 年にくるめ STP に参加した 7-12 歳の ADHD の小児 37 名とその母親を対象として、起床時と 30 分後の 1 日 2 回コルチゾール測定のため唾液を採取した。DSM-5 に基づく ADHD 症状の評価と自記式 Kid-KINDLR を用いた QOL の評価も行った。唾液採取と ADHD 症状、QOL の評価は STP 前後、4 か月後に行った。

CAR は STP 前の ADHD の小児で有意に低かったが、STP の 4 か月後には定型発達児と同レベルまで増加した。母親の CAR も STP 後に増加傾向があった。ADHD の小児における CAR の変化は、ADHD の不注意スコアの改善、Kid-KINDLR の下位項目の身体的健康、及び学校生活スコアの改善と相関する傾向があった。

我々は、STP への参加により ADHD の小児の行動及び QOL が改善することを示した。今回の結果は、STP 後の CAR の増加に反映されるように、STP への参加により HPA 軸機能が改善する可能性が示唆される。